

日学薬会発第2号
平成17年4月18日

都道府県学校薬剤師会会長 殿

日本学校薬剤師会
会長 杉下 順一郎

平成17年度全国学校保健調査について（協力依頼）

平素より本会会務に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本会では例年、都道府県学校薬剤師会のご協力を得て、全国学校保健調査を実施しております。

本年度調査は、本会学校保健調査実行委員会において検討を重ねた結果、調査テーマを「教室等の空気、騒音環境及び騒音レベルについて」と定め実施することとなりました。

昨年度より、マークシート方式の調査用紙に一新いたしました結果、これまでの3分の1抽出の集計ではなく、ご提出いただいた調査用紙すべての集計が可能となり、更に学校保健の現状把握、調査結果の信頼性UPが実現できました。

本年度も一層のご協力、ご回答を得たく、会務ご多用の折誠に恐縮ながら、貴学校薬剤師会の皆様のご参加方、ご周知下さいますようお願い申し上げます。

記

提出期日：平成17年9月16日（金）本会事務局必着

調査用紙送付枚数：各都道府県の学校数に応じて、50,000部を按分しました。

集計結果報告：集計作業完了後、全国版報告書を作成すると共に、各都道府県分をフロッピーディスクにて報告いたします。

お願い事項：

各支部への調査用紙配付の際、別紙の「マークシート用紙の取り扱い、記入上のご注意」を添付いただき、末端まで注意喚起が行渡るようご配慮下さい。

調査用紙回収後、貴会において調査用紙の点検、修正等をお願いいたします。

特に、**基本データ**（学校設置区分、学校の種類、児童生徒数、都道府県コード）の記入に漏れがないかをご確認下さい。

別添の送付票（送付種別）に、回収された調査用紙枚数をご記入の上、本会事務局あてご提出下さい。

調査用紙の原紙は返却いたしません。貴会にてご入用の場合は、あらかじめ複写等をお願いいたします。

お問い合わせ・提出先：〒150-8389 渋谷区渋谷2-12-15 長井記念館4階

日本学校薬剤師会事務局 TEL 03-3406-1171

その他：本調査に関し、文部科学省への協力要請はしておりません。

平成17年 月 日

日本学校薬剤師会 御中

貴会名 _____

ご担当者名 _____

「平成17年度 全国学校保健調査」送付票

幼稚園	枚
小学校	枚
中学校	枚
高校（全日制）	枚
高校（定時制）	枚
特殊学校・諸学校	枚
高等専門学校	枚
回収枚数合計	枚

マークシート用紙の取り扱い、記入上のご注意

日本学校薬剤師会の全国学校保健調査にご協力いただきまして、誠に有難うございます。本調査は、日本学校薬剤師会 学校保健調査実行委員会が調査内容を企画し、都道府県学校薬剤師会のご協力のもと、毎年実施させていただいております。

日常業務のお忙しい中ご協力をいただきますので、調査用紙の取り扱いによる無効をなくすために次の点にご留意いただきたいと存じます。

マークシートは機械で集計するため、汚れ、キズ、記入漏れ等の不備があるとはじかれてしまいます。

1. 記入は必ず **HB の黒鉛筆** で枠内を **正確に塗りつぶ** してください。
2. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
3. 調査用紙を **汚したり、折り曲げたり、穴を開けたり** しないでください。
4. 調査用紙を **クリップやホチキス** で留めないでください。
5. **基本データ** (学校設置区分、学校の種類、児童生徒数、都道府県コード) を漏れなく記入してください。**漏れがあると無効** になります。

都道府県コード

01 北海道	09 栃木	17 石川	25 滋賀	33 岡山	41 佐賀
02 青森	10 群馬	18 福井	26 京都	34 広島	42 長崎
03 岩手	11 埼玉	19 山梨	27 大阪	35 山口	43 熊本
04 宮城	12 千葉	20 長野	28 兵庫	36 徳島	44 大分
05 秋田	13 東京	21 岐阜	29 奈良	37 香川	45 宮崎
06 山形	14 神奈川	22 静岡	30 和歌山	38 愛媛	46 鹿児島
07 福島	15 新潟	23 愛知	31 鳥取	39 高知	47 沖縄
08 茨城	16 富山	24 三重	32 島根	40 福岡	

調査を行う目的および意義は？

全国レベルでの学校環境の経年比較（調査項目の若干の変更はあるが、5年ごとにほぼ同じテーマで調査を行っているため）ができ、その改善への取り組み方が良かったか、また更に改善が必要かの判断材料とすることができます。

新「学校環境衛生の基準」への対応の進展を知ることができます。

調査結果から自県と他県の環境調査結果の比較ができ、県レベルでの改善や担当学校へのアドバイスのヒントにいただけるメリットがあります。

調査用紙の回収後は？

調査用紙の回収後は集計を行い、以下のように有効活用しております。

都道府県学校薬剤師会に、集計結果データを保存したフロッピーディスクと報告書（冊子）を送付。

日本薬剤師会雑誌への報告書掲載。

日本薬剤師会学術大会での発表。

平成17年度全国学校保健調査

(教室等の空気、騒音環境及び騒音レベルについて)

コピー不可

日本学校薬剤師会

記入・取扱上の注意

- 記入は必ずHBの黒鉛筆で正確に塗りつぶしてください。
- 訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 用紙を汚したり、折り曲げたり、穴を開けたりしないでください。
- 用紙をクリップやホチキスで留めないでください。

記入例 良い例 悪い例

*調査方法、集計結果の発表等について

- この調査は学校薬剤師が行います。
- 調査結果は集計した結果のみ発表し、個々の学校について発表することはありません。
- この用紙は、一校につき一枚ずつ記入してください。

例えば、幼稚園と小学校が同一校地内にある場合、全日制高等学校と定時制高等学校が同一校舎を使用している場合、別の場所に分校がある場合、小中高等学校が一貫教育である場合などは、それぞれの学校につき一枚ずつ記入してください。

- この調査についてのご質問や、記入済みの用紙のご提出は、各都道府県学校薬剤師会（薬剤師会）を通じてお願いします。

学校名	正式名で記入	
所在地	(ゴム印が望ましい)	
学校教職員の職名及び氏名		
学校薬剤師氏名		
調査年月日	平成17年	月 日

*基本データ（下記）は漏れなくマークしてください。マーク漏れがあると集計より除外されます。

A. 学校設置区分		1: 5
1. 国立	2. 都道府県立	2: 6
6. 村立	7. 組合立	3: 7
3. 区立	8. 私立	4: 8
4. 市立	5. 町立	1: 5
B. 学校の種類		2: 6
1. 幼稚園	2. 小学校	3: 7
5. 定時制高等学校	6. 盲学校・聾学校・養護学校	4: 8
3. 中学校	4. 全日制高等学校	1: 5
	7. 高等専門学校	2: 6
C. 児童生徒数		3: 7
調査当日の在籍数をマークしてください。		4: 8
	千の位	1: 2: 3: 4: 5: 6: 7: 8: 9: 0
	百の位	1: 2: 3: 4: 5: 6: 7: 8: 9: 0
	十の位	1: 2: 3: 4: 5: 6: 7: 8: 9: 0
	一の位	1: 2: 3: 4: 5: 6: 7: 8: 9: 0
D. 都道府県コード（必ずマークしてください）		1: 5
	十の位	2: 6
	一の位	3: 7
		4: 8

A. 教室等の空気についてお尋ねします。

No.	質問	回答
A-1	教室の空気について平成16年度に定期検査を行いましたか。 1. 2回以上行った 2. 1回行った 3. 行わなかった (B-1へ)	1: 5 2: 6 3: 7
A-2	代表的な教室の環境についてお答えください。 1. 自然環境 2. 人工的環境 (冷暖房の空調設備がある)	1: 5 2: 6
A-3	教室の空気の平成16年度定期検査で、下記の項目のうち、行ったものについて該当するものを選んでください。(複数回答可) 1. 温度 2. 相対湿度 3. 二酸化炭素 4. 気流 5. 一酸化炭素 6. 二酸化窒素 7. 浮遊粉じん 8. 落下細菌 9. 実効輻射温度 10. ホルムアルデヒド 11. 揮発性有機化合物 12. 換気回数 13. ダニ又はダニアレルゲン	1: 5 2: 6 3: 7 4: 8 5: 9 6: 10 7: 11 8: 12 9: 13
A-4	定期検査の結果、二酸化炭素の濃度はどのようでしたか。 (基準：室内は1,500ppm (0.15%以下) であることが望ましい) 1. すべて基準値以内であった 2. 基準値を超えるものがあった 3. 測定していない	1: 5 2: 6 3: 7
A-5	換気回数について行いましたか。(基準：40人在室、容積180m ³ の教室の場合、幼稚園・小学校2.2回/時以上、中学校3.2回/時以上、高等学校等4.4回/時以上であること) 1. 行った結果、すべて基準値以上であった 2. 行ったが、基準値を満たしていないものがあった 3. 行っていない	1: 5 2: 6 3: 7

(裏面にも回答欄があります)

A-6	平成14年2月5日以降に、ホルムアルデヒドの測定はしましたか。 1. 測定した 2. 測定していない	1 2
A-7	平成16年度に実施したホルムアルデヒドの測定結果はどうでしたか。 (複数の教室について行った場合は、一番高い数値についてお答えください。) 1. 基準値の2分の1以内 (A-9へ) 2. 基準値の2分の1を超え基準値以内 (A-9へ) 3. 基準値を超える 4. 平成15年度以前に実施した測定結果がすべて基準値の2分の1以内であったので測定していない (A-9へ) 5. 測定していない (A-9へ)	1 2 3 4 5
A-8	ホルムアルデヒドの測定結果が基準値を超えたことについて、事後措置を行いましたか。 1. 学校薬剤師の指導助言を得て事後措置を行った 2. 学校薬剤師に相談したが、事後措置は行っていない 3. 学校内または教育委員会等で事後措置を行った 4. 何もしていない	1 2 3 4
A-9	平成16年度にダニ又はダニアレルゲンの測定を行いましたか。 1. 測定した結果、すべて基準以下であった 2. 測定した結果、基準を超えるものがあった 3. 測定していない	1 2 3
A-10	教室内の暖房器具の燃焼ガスについてお尋ねします。代表的な教室についてお答えください。 1. 燃焼によらない熱を利用する (電気、蒸気等) 2. 燃焼ガスを煙突、排気管等で室外へ出す (石油、石炭、ガス等) 3. 燃焼ガスが室内へ放出される (石油、石炭、ガス等) 4. 暖房器具はない	1 2 3 4
A-11	平成16年度に二酸化窒素の測定を行いましたか。 1. 測定した 2. 測定していない	1 2

B. 騒音についてお尋ねします。

B-1	騒音環境について平成16年度に定期検査を行いましたか。 1. 2回以上行った 2. 1回行った 3. 行わなかった (C-1へ)	1 2 3
B-2	学校の教育活動に影響を与える騒音の発生源の主なものはどれですか。 1. 各種交通機関からの騒音 2. 校舎内の騒音 3. 校庭からの騒音 4. その他 (工場、工事等) からの騒音 5. 影響を与える騒音はなかった	1 2 3 4 5
B-3	平成16年度定期検査で騒音レベルを測定しましたか。 1. 測定した 2. 測定しなかった (C-1へ) 3. 学校の教育活動に影響を与える騒音がないため測定しなかった	1 2 3
B-4	騒音レベルを測定した結果はどうでしたか。 1. すべて基準値以内であった 2. 基準値を超えるものがあった	1 2
B-5	定期検査に使用する騒音計はどんな形式ですか。 1. 等価騒音レベルが測定できる騒音計を使用した 2. 普通騒音計で測定し計算式を利用して出した 3. 従来の方法で行った	1 2 3

C. 教室の空気と騒音環境の日常点検の実施状況についてお尋ねします。

C-1	教室の空気について日常点検を行っていますか。 1. 点検して記録している 2. 点検しているが記録していない 3. 点検していない (C-4へ)	1 2 3
C-2	教室の空気の日常点検は日常点検の基準のうち、どの項目について行っていますか。 1. 温度・臭気・換気・その他 2. 温度・臭気 3. 温度・換気 4. 臭気・換気 5. 温度 6. 臭気 7. 換気	1 2 3 4 5 6 7
C-3	教室の空気の日常点検は主に誰が行っていますか。 1. 保健主事 2. 養護教諭 3. 学級担任 4. その他の教員 5. 児童・生徒 6. その他	1 2 3 4 5 6
C-4	教室の換気をする場合、主な方法は次のどれですか。 1. 常に、欄間、窓、戸等を少し開け、休み時間に窓、戸を開ける 2. 常に、欄間、窓、戸等を少し開けている 3. 休み時間に窓、戸を開ける 4. 器具 (換気扇など) の使用	1 2 3 4
C-5	冬季、教室の換気は主に誰が行っていますか。 1. 児童・生徒 2. 教師 3. その他	1 2 3
C-6	教室の騒音環境について日常点検を行っていますか。 1. 点検して記録している 2. 点検しているが記録していない 3. 点検していない	1 2 3

ご協力ありがとうございました。